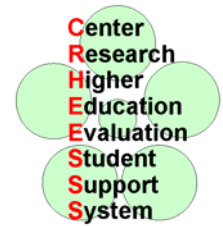


# 週刊センターニュース No.7



第7号(2004年4月26日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

共同学習会は、教職員の間で教育、研究、そしてその支援のあり方等について自由に議論する場です。どなたでも参加できます(可能な限り事前にご連絡ください)。

第15回 日時: 5月6日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 松井 秀治 共通教育課長

題目: 「金沢大学の新しい事務組織について」

企画の趣旨: 法人化に伴い、新しい事務組織が発足した。それぞれの所掌等について一人ひとりの教職員が理解しておかねば効率的な仕事はできない。情報の流れがスムーズにいかないと組織は停滞してしまう。学長が強調される、教員・職員のイクォールパートナーシップの実質的確立に向けた、最初の共同学習会とする。

第16回 日時: 5月13日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 早田幸政 大学教育開発・支援センター教授

題目: 「大学評価・学位授与機構の「大学機関別認証評価」」

概要: さる4月13日(火)、東京都千代田区一ツ橋の日本教育会館で、大学評価・学位授与機構主催の「大学機関別認証評価に係るシンポジウム」が開催されました。そこでは、同機構の関係者より、機構の構想する「大学機関別認証評価」のアウトラインについて説明がなされるとともに、その説明を受けてパネリストたちによるパネルディスカッションが行われました。当日の機構関係者の説明をなるべく忠実に再現していく中で、今後の機構が担う大学評価の方向性について共に考えていきたいと思えます。

第17回 日時: 5月20日(木) 5時限目(16:10~17:40)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 古畑徹 文学部教授

題目: 「教養教育カリキュラム刷新案(最終報告)の要点と今後の検討課題」

## 「大学機関別認証評価に係るシンポジウム」について

去る4月13日(火)、東京千代田区一ツ橋の日本教育会館で、大学評価・学位授与機構主催の「大学機関別認証評価に係るシンポジウム」が開催されました。主催者の発表では、参加者総数700名と云うことでした。参加者の数の多さが、「大学機関別認証評価」への大学関係者の関心の高さを如実に物語っています。

シンポジウムでは、大学評価・学位授与機構の機関別認証評価の概要、大学評価基準(案)について同機構評価研究部のスタッフから説明がなされた後、大学機関別認証評価のあり方をめぐって、パネルディスカッションが行われました。パネリストは、相澤益男(東京工業大学長)、大南正瑛(京都橘女子大学特別顧問)、川口昭彦(大学評価・学位授与機構評価研究部長)、小出忠孝(愛知学院大学長)、館昭(桜美林大学教授)、森正夫(前愛知県立大学長)といった方々でした。

大学機関別認証評価は、平成16年度より起算して7年の間に受けなければならない法律上の義務です。もとより金沢大学も、この義務を免れることはできません。

そうした意味においても、なるべく近いうちに、大学評価・学位授与機構の大学機関別認証評価システム・大学評価基準を中心に、シンポジウムの概要をご報告する機会を持ちたいと思います。(文責 早田)  
(このシンポジウムの概要について、5月13日の共同学習会において早田が報告いたします。)

金沢大学「なんでも相談室」が、4月19日付け読売新聞に掲載される。

## 探訪 大学法人化 の現場から 2



履修科目について新入生らの相談を受ける現役学生(右)(金沢大の「なんでも相談室」で)

金沢大学の「なんでも相談室」で今月八日、新入生が履修科目の選択について相談していた。  
「大学では英語をしっかりと学びたいのですが」「それなら、この科目は取った方がいいよ」  
応じているのは、現役大学生。就職やアルバイト、恋愛などの悩みも持ち込まれ、大学院生を含む約二十人のスタッフが交代で対応している。  
相談室が設置されたのは三年前の四月。学内の調査で、学生の約八割が何らかの悩みを抱えながら、教員には相談しにくいと感じている実態が浮かび、在学生に白羽の矢が立った。昨今、希薄になっていく学生同士のつながりを強める狙いもある。初代室長の青野透教

## 悩み聞くのも教育のうち

授は、「いつでも気軽に立ち寄れる学内のコンビニのような存在」と話す。  
相談内容で特に多いのが学業に関するもの。このため、今月の法人化をきっかけに、勉強の仕方を専門に伝授する「学び方相談」も開始した。  
学生相談の拡充は、法人化に伴って多くの国立大学が掲げている。大阪大は、学生が約束なしで教員の部屋を訪ねられる「オフィスアワー」の充実を目指す。室蘭工大では、約十人の新入生に教員一人を割り当てる「チューター制」を全学科で実施したい考えだ。  
「かつては『大学生といえば大人』という意識が強く、大学側も学生の悩みに無関心だったが、最近ほきめ細かいケアが必要になってきた。悩みを聞くのも教育のうちです」  
大学の担当者は、こう口をそろえる。

### 角間ランチョンセミナー開催記録(4月19日～4月23日分)

- 2004.4.19「ネットワーク利用の心得ーウイルスに注意ー」 車古 正樹(総合メディア基盤センター)
- 2004.4.20「ハモれば楽しい アカペラライブ」 アカペラサークルメロメロ
- 2004.4.21「子どもと遊ぼう」子供会サークルつみき
- 2004.4.22「大空へ飛び出そう」パラグライダーサークル LANGIT
- 2004.4.23「ホケカンて何? カウンセリングもあります」鈴木 健一(留学生センター)

### センター教員活動記録(4月19日～4月25日分)

- 2004.4.19 第3回事例調査研究会「名古屋大学マスタープランの変遷と、国立大学法人の中期目標・中期計画策定について」参加 (主催:(社)日本ファシリティマネジメント推進協会)  
会場:名古屋大学ベンチャービジネス・ラボラトリー(西山、校費出張)
- 2004.4.22 第14回大学教育開発・支援センター共同学習会開催(発表者 青野)